



平和と戦争



『Dear 16とおりのへいわへのちかい』

サヘル・ローズ／著 イマジネーション・プラス **K369** 口



今この瞬間も、世界には戦争や紛争で難民となって苦しんでいる子どもたちがいます。本書では、現場を訪れた俳優のサヘル・ローズさんが、16人の子どもたちの手紙と絵を紹介しています。子どもたちの思いに触れると、地球上から争いがなくなり、全ての子どもたちに平和で希望に満ちた未来が訪れることを自然と願ってしまう1冊になるはずです。 【児童室にあります】

『奇跡のプレイボール』 おおこそ 大社 充／著 金の星社 **K783** オ

第二次世界大戦終戦から約60年後、ハワイのある球場に集まったのは、激しい戦火を生きぬいた日米の元兵士たちでした。戦時中争い合った者たちの手には、武器ではなくバットやグローブがあり、共に白球を追いかける姿がありました。本書は、かつて敵対していた兵士たちが起こした奇跡のプロジェクトの実録です。 【絵本室にあります】



『まんが少年、空を飛ぶ 特攻隊員・山崎祐則からの絵手紙』

山崎 祐則／著 稲泉 連／解説 偕成社 **289.1** ヤ



漫画を描くのが得意で空を飛ぶことを夢見ていた山崎少年は、16歳で予科練に志願します。入隊から特攻で亡くなるまでの2年半の間に家族へ送った手紙には、日々の訓練の様子などを描いた絵が添えられ、当時の少年兵の日常が生き生きと伝わってきます。憧れの大空を飛ぶ喜びが綴られている一方で、戦況の悪化とともにほとんど実戦経験のない若者たちが最前線へ送り込まれていく様子が伺え、胸が詰まります。



『ある晴れた夏の朝』 小手鞠 るい／著 偕成社 **913.6** J



15歳の夏休み、アメリカに住む主人公・メイは日本への原爆投下の是非を問う公開討論会に参加します。日系アメリカ人であるメイをはじめ、アイルランド系、中国系、ユダヤ系、様々なルーツをもつ8人が肯定派と否定派に分かれ、それぞれの立場や視点で意見を戦わせます。双方の思いのこもった訴えは心を揺さぶり、一気に読み通してしまう熱があります。中高生から大人まで幅広く読んでほしい1冊です。

【ティーンズコーナーにあります】

『ガザ、戦下の人道医療援助』 萩原 健／著 ホーム社 **498** ハ

本書は、国境なき医師団の緊急対応コーディネーターの著者が、活動責任者として戦時下のガザで人道医療援助活動に携わった、2024年8月から9月までの6週間の記録です。イスラエル軍の絶え間ない空爆により、生命の危険にさらされる中で活動するスタッフの姿、いまだ戦時下のガザの状況に、タイトルにもある人道とは何か、その意味、重みを改めて考えさせられます。

